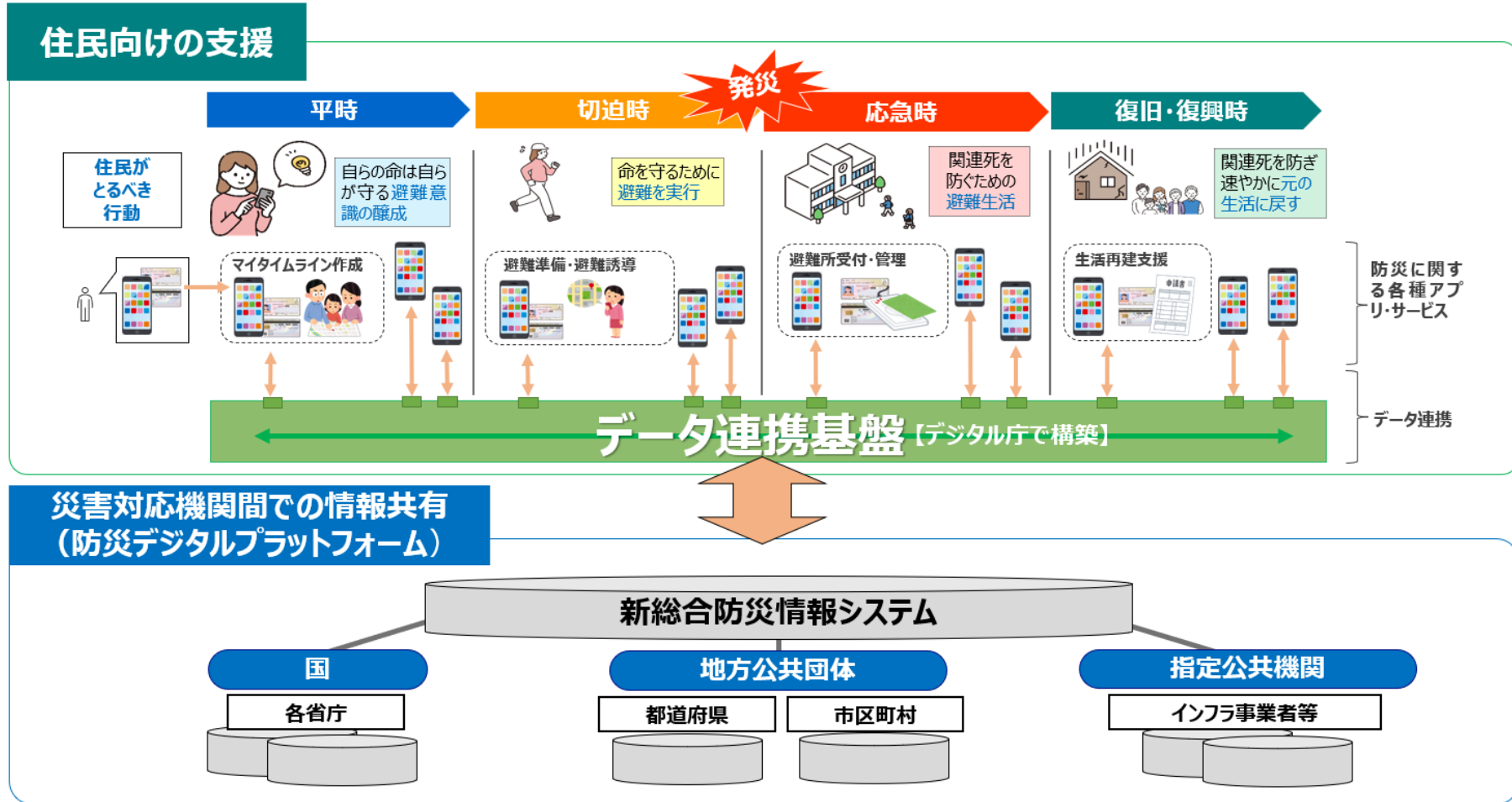


『防災分野のデータ連携基盤の実証に関する調査研究』に係る
防災DX官民共創協議会を通じたアプリ事業者参画募集と選定結果

国民向けサービスグループ防災班

1. 防災分野のデータ連携基盤の構築について

○デジタル庁では、住民支援のためのアプリ開発・利活用の促進を図るため、データ連携基盤の設計・構築を進めており、アプリ・サービス間でのデータ連携を図ることで、防災アプリ等においてワンスオンリーを実現し、個々の住民等が災害時に的確な支援が受けられるような環境の構築を目指しています。

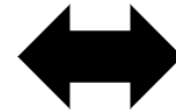
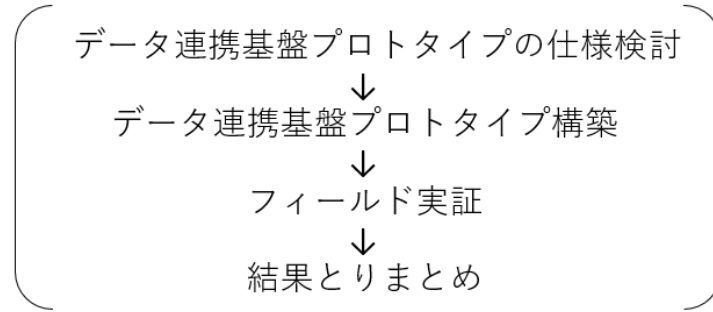


1. 防災分野のデータ連携基盤の構築について

- 令和8年度以降に本格構築を予定しており、今年度はプロトタイプを構築し、実証を行っています。
- データ連携基盤の構築については、民間・自治体等のメンバーで構成される「防災DX官民共創協議会」とも連携しながら検討を進めています。

令和6年度

- ・データ連携基盤プロトタイプの実証



防災DX官民共創協議会と
意見交換しながら、検討を実施

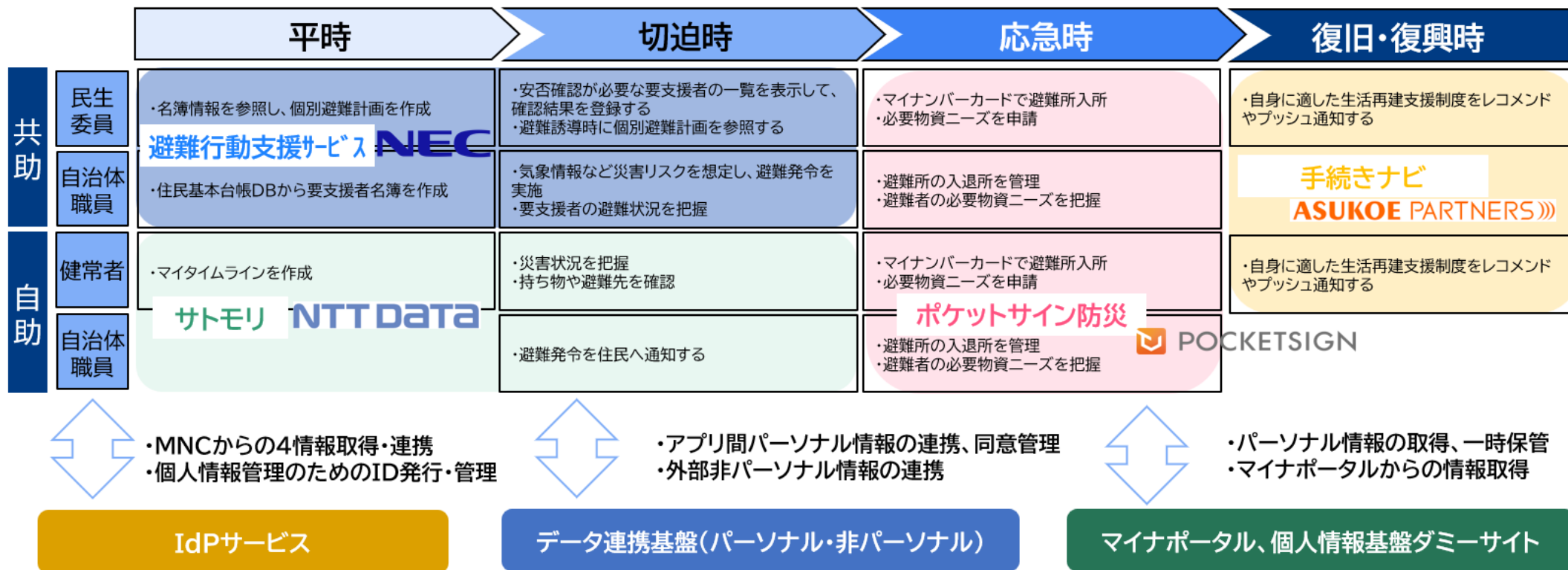
- ・技術検討、制度運用検討を実施

2. プロトタイプ構築及び実証事業について

○今年度のプロトタイプ構築及び実証は、三菱総合研究所を事業委託先とし、実施いたします。プロトタイプを構築の上、委託先選定のアプリ事業者4社のアプリを用いて、防災アプリ利用時に『ワンスオンリーの実現により、住民が災害時に適時・適切な支援が受けられることを確認する』ことを主目的に検証を行います。

- 使用アプリ：①避難行動支援サービス（日本電気株式会社）②サトモリ（株式会社NTTデータ）
③ポケットサイン防災（ポケットサイン株式会社）④手続きナビ（株式会社アスコエパートナーズ）

『シナリオとアプリケーション構成』



3. プロトタイプ実証への追加参画事業者の募集について

○さらに、以下の効果を期待し、防災DX官民共創協議会を通じ、1~2社の追加参画事業者を募集しました。
 期待効果：①データ連携基盤が扱うデータの種類・形式を増やす。
 ②アプリ間連携において災害のフェーズ(平時、切迫時、応急時、復旧復興時)の網羅性を高める。

『募集案内抜粋：シナリオイメージ、検討依頼項目』

デジタル・マイタイムライン作成時にマイナポータルAPIから自分の情報（薬剤情報等）を自動入力できる。そのほかの自分や家族に関する情報（車いすの家族がいる、ペットがいる等）を登録する。

大雨により河川の水位が上昇し、自治体から避難指示が発表された。
 マイタイムラインの情報が避難アプリに引き継がれ、自分や家族に必要な持ち物や、避難所までの移動に要する時間を確認することができた。

避難所に到着した。マイナンバーカードを使って避難所に入所した。
 マイタイムラインの情報が避難所運営システムに引き継がれたので、改めて自分や家族に関する情報を申し出なくても済んだ。

自分や家族が必要な物資のニーズに基づいて物資が調達され、避難所に物資が到着した際には配布開始に関する情報等の必要な情報やサービスを受けることができた。

罹災証明書の交付を受けたあと、罹災証明書が交付された方が対象となる生活再建支援制度の情報がプッシュ通知された。

**ユーザー基点のワンスオンリーにより
 住民への適切な支援が実現**

項番	項目	内容	評価対象
1	アプリの説明	・ 提供するアプリの機能、特徴の説明	
2	アプリが扱うデータ(概要)	・ アプリが扱うデータについて、パーソナルデータ・非パーソナルデータに分けて概要を説明	
3	ワンスオンリーにより提供できる価値	・ 他アプリから、あるいは、他アプリへデータ連携することで新たに得られる価値について説明 ※当該アプリが加わることで、現状のシナリオにどのようなストーリーを加えることができるか。例えば、住民の行動が変わる、意識変容のための新しい行動が増える、個人情報入力の手間や時間等が削減できるか	○
4	フェーズの網羅性	・ 他アプリとの連携において平時から復旧・復興までのフェーズの網羅性が高まるか ※決定済み 4 アプリとの立ち位置の違い（あるいは同じ場合はその理由）	○
5	アプリで使用したいデータ	・ データ連携基盤から提供を受けたいデータの具体的な説明	○
6	アプリから提供可能なデータ	・ アプリからデータ連携基盤に連携するデータがあるか、あればその内容の具体的な説明	○
7	連携アプリ向け技術要件	・ 『2.3 連携アプリ向け技術要件』に対する実現可否・制約・課題について説明	○
8	参考費用（別紙にて回答）	・ 想定作業規模感をもとにした参考費用を算出 ※対象はアプリ改修・結合連携テストです。実証参加（リハール 2 回、本番 1 回）については別途調整予定。	○

4. 選定の経緯、結果

○短期間での募集に対し多数の応募をいただきました。内容確認に時間を要し選定期間が計画より長くなりましたが選定を完了しました。

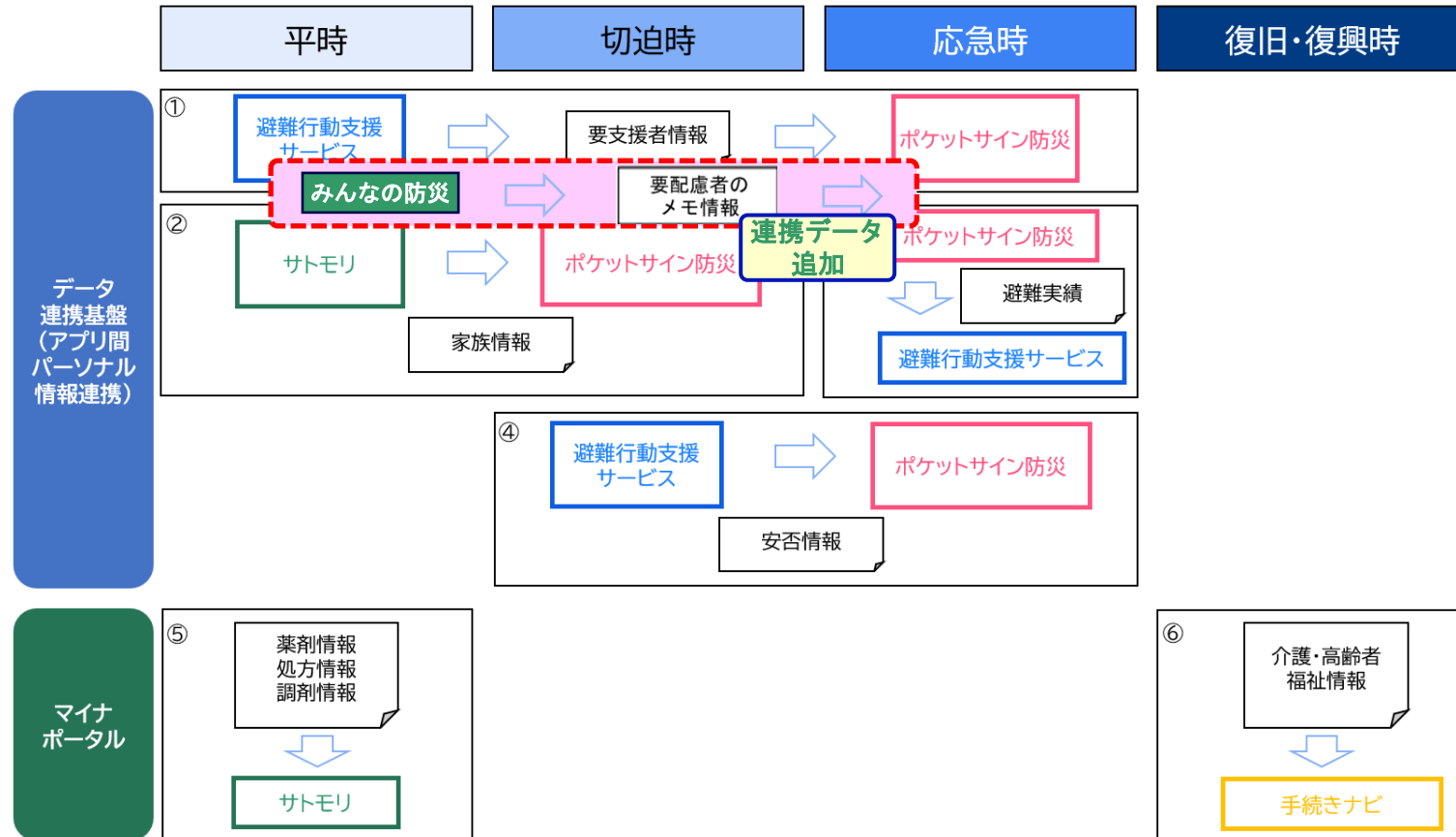
日付	イベント	内容
2024/9/5,6	追加参画募集説明会	Teamsにて2回実施、約80名から参加いただきました。
2024/9/6～19 (2024/9/19 12:00)	公募期間 (提案締切)	10社からご提案を受領しました。
2024/9/19～10/4	第一段階選定	以下の観点から総合的に検討し、3社を第二段階選定対象と決定いたしました。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の検証の主目的であるワンスオンリーとの親和性 ・作成中のシナリオとの親和性 ・住民への直接的な効果 ・フェーズの網羅性向上 ・既定アプリとの機能・取り扱いデータの観点での優位性 ・構築中のプロトタイプへの変更インパクト ・スケジュール等のプロジェクト推進に関する観点
2024/10/7～11/1	第二段階選定	以下の観点で今回の実証に最も馴染むと思われるソフトウェアを検討し、1社に追加参画いただくことと決定いたしました。 <ul style="list-style-type: none"> ・機能の詳細確認 ・実証実験に組み入れると想定した際のユースケース等についてヒアリングした内容 ・実証実験の目的や他の実証参画アプリとの親和性

4. 選定の経緯、結果

〇イツモスマイル株式会社の【みんなの防災】アプリに実証実験へ追加参画いただくこととしました。

(選考理由) 新たな連携データによる住民への直接的なワンスオンリー効果が狙え、構築中のプロトタイプへの変更インパクトも考慮しつつ、今回の実証の目的・シナリオに最も馴染むと考え選定しました。

『アプリ・データの追加内容』



※追加参画事業者募集資料(2024/9/5)抜粋へ追加参画内容を追記

5. 今後に向けて

- 追加参画の選定を通して様々な気付き・課題を得ることが出来ました。
- 来年度も継続予定の実証実験については、より多くの事業者様に参画いただけるよう検討してまいります。
- データ連携基盤構築に向けて、引続き防災DX官民共創協議会と情報交換・意見交換を行いながら進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

デジタル庁
Digital Agency